

■【トピックス】  
ノーベル文学賞！



今年のノーベル文学賞が発表されました。米国のシンガーソングライターのボブ・デュラン氏に決まりました。日本の村上春樹氏の受賞は今年もありませんでしたが、多くのハルキスト達は、今回の文学賞を歓迎しているようです。

一方、最近のノーベル文学賞は政治的な思惑があるのではないかとわれています。近年の文学賞受賞者の作品は、文学的な内容よりは政治的なメッセージ性があるものが好まれているようです。

■【ビジネス・アイ】  
事業性評価融資！

社長 「なんか金融庁が中小企業向けに説明会を開いたと新聞に載っていたけど、どんな内容だったのか知っているかなあ？」

花野 「はい、事業性評価融資の話ですね」

社長 「その事業性評価融資っていうのは、いったいなんなの？」

花野 「まず、事業性評価というのは、銀行が、決算内容や担保・個人保証にとらわれることなく、企業訪問や経営相談等を通じて情報を収集して、その企業の事業内容や成長可能性などをキチンと評価することをいいます」

社長 「それと融資と、どう関係するの？」

花野 「極論すると、担保や保証人がいなくても、事業に将来性があれば融資が受けれるということですね」

社長 「え！ そうなの、でもうちの会社の場合、銀行は担保を入れろ、個人保証しろと今でも言うよ」

花野 「そこで、金融庁が事業性を評価して融資するように銀行に指導していますよって、中小企業に説明したんです。それで銀行の融資姿勢に問題があるようだったら、言って来てねということですね」

社長 「そうなんだ、そういうことなら、今度銀行の担当者がうちに来た時に、この事業性評価融資について聞いてみるよ」

花野 「それがいいですね」

■【今月のキーワード】

事業性評価

事業性評価とは、金融機関が、現時点の財務データや、担保・保証にとらわれずに、企業訪問や経営相談等を通じて情報を収集して、事業の内容や成長可能性などを適切に評価することをいいます。これにより、これまでのような担保や保証に依存した融資から事業性評価に基づいた融資への転換を目指しています。金融機関では、これに対応するために職員の能力を向上する取組みをしています。つまり、従来の銀行マンに経営コンサルタントとしての能力が求められているのです。

■【今月の1冊】

『日本から城が消える』

加藤理文 著

洋泉社 ¥900

名古屋市の河村市長が名古屋城天守閣の木造再建を提案して名古屋市議会が混乱しています。耐震不足を主な理由としています。

しかし、河村市長が主張するような木造再建はできるのでしょうか？現在の法律では、一度取り壊すと木造はおろかコンクリートによる再建も難しいことが分かります。是非とも市長には現実的な主張をしてもらいたいものです。



■【編集後記】

相変わらずポケモンGOを続けています。体重も体脂肪率も減ってダイエットにはいいのですが、長時間歩きながらスマホの画面を見ているので、首から肩がこってしかたがないです。すべてにいいことはなかなかないですね（笑）

『経営のセカンド・オピニオン』vol.116（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2016.11.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>